

北沢下急小田

跡地利用 区民の声を

21日から
世田谷区

再開発再考 切り口に

下北沢で地下化工事が進められている小田急線の跡地利用で、世田谷区は二十一日から北沢地区会館など三カ所を四回、区の家をパネルで紹介するオープンハウスを開く。保坂展人区長が八月末に地元で開かれたシンポジウムで「区民の意見を聴いて区案を見直す」と表明したのを受けて企画。保坂区長は「跡地問題を切り口に下北沢の再開発についても

区民の合意を得て修正したい」と話す。跡地は東北沢―梅ヶ丘駅間約二キロで、区は二月に駅前広場や駐輪場、緊急車両の通路などを設ける案を作った。周辺住民には通信を配って知らせたが、説明会などは開いていなかった。オープンハウスの出入りは自由で、職員に説明を求めることができる。区案について会場アンケートを

とるほか、今後、地元町会や商店街の意見を聴

き、区案を修正する。東日本大震災を踏まえて防災機能を追加し、区民の意見をより反映した案として本年度中にまとめる計画。跡地利用を含む下北沢の再開発は、賛成派と反対派が長年対立してきた問題で、大型開発優先の区政からの転換を掲げて今春当選した保坂区長は「区民が意見や知恵を出せる場を設け、見直したい」と話した。(松村裕子)